



令和3年度
障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ用具活用促進事業）

事業実施報告書

令和4年4月
株式会社今仙技術研究所

現状課題

- 課題1 走行用義足一式が高価格である
- 課題2 義足走行の指導ができる人材の不足
- 課題3 走行用義足の暗黙知化された製作・保守・調整ノウハウ

目的

- 義足走行を試したい下肢切断者に対して活用拠点を整備し、上記課題を解決することで下肢切断者の持続可能なスポーツレクリエーション環境を創出する



実施計画（課題の解決方法）

- 課題1 走行用義足足部試着品及び試着必要部品の設置
- 課題2 走行用義足足部に関する義肢装具士向けセミナーと走行用義足体験会の実施
- 課題3 走行用義足のアライメントデータの蓄積と活用

事業実施実績

実施内容

- 2021年12月
 - ① 走行用義足部品(KATANAc)を協カスポーツ団体へ設置、体験希望者への試着対応開始
- 2021年12月
 - ② アライメント管理ソフトウェアデータベース改修、計測ジグ製作
- 2022年1月
 - ③ スポーツ団体体験希望者試着対応、アンケート回収作業
- 2022年2月
 - ④ スポーツ用義足講習会の開催

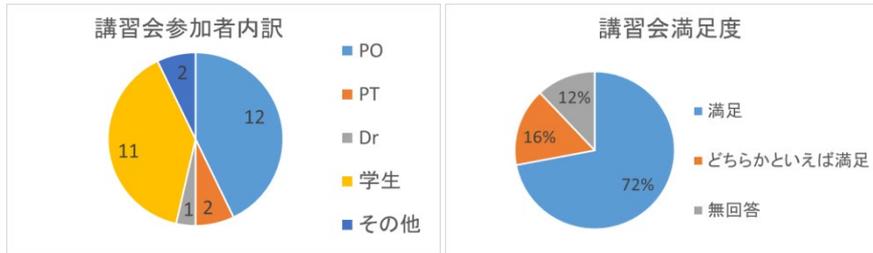


実績

- ① 新型コロナウイルスの影響のため、期間中の活動回数は1回、試着は以下3名であった。
 - ・保育園男児 ・20歳代専門学生男性 ・40歳代会社員男性
- ② 株式会社ケイズデザインラボへ依頼しアライメント管理ソフトウェアを実用的な仕様へとまとめた
- ③ 新型コロナウイルスの影響のため、期間中の活動回数は1回、試着は以下3名であった。
 - ・小学生女児 ・小学生男児 ・20歳代女性
- ④ スポーツ用義足講習会を開催した。義肢装具士ほか28名の参加。
 講師に臼井二美男氏、八重野なつき氏、浜田篤至を招き走行用義足に必要な知識、情報、新しいアライメント管理方法を提供した。また参加者には終了証を発行し、アンケート調査を行い評価指標に基づく評価を実施した。

実績評価

講習会の反響



講習会では満足、どちらかといえば満足が88%と高い満足度を得られた講習会となり、参加された方が期待していた内容以上の講習を行えたと推測される

指標評価に基づく評価結果



理解度のアンケートでは受講前は理解していないと認識している参加者が過半数の60%であったのに対し、受講後には理解できているとの回答が96%に達し、参加者ほぼ全員が運動用義足の理解が深まったことが伺える。

計画では参加者の経験の有無に関わらず受講後に走行用義足の理解度が一定水準の5点以上が80%となることを目標として開催したが、想定以上の成果を得ることができた。

また開発されたアプリについてもその有効性について高い期待を得られた。

※新型コロナウイルスの影響で計画より実施機会、試着実績は少なくなり、セミナーと同時開催の体験会は中止となった



まとめ

・本事業で取り組むべき課題として、以下3件を挙げ事業実施を試みた。

- (1) 走行用義足足部試着品及び試着必要部品の設置、
- (2) 走行用義足足部に関するセミナーの実施、
- (3) 走行用義足のアライメントデータの蓄積と活用

しかしながら、コロナ禍の影響があり当初計画していた目標人数、データ集計が思うように遂行することができなかった。

特に影響が大きかったのは設置した走行用義足の試着と継続使用、体験会、アライメントデータ管理アプリの臨床でのデータ蓄積が挙げられ、今後継続した活動を行うことで課題解決に取り組む必要がある。

一方で開催講習会と講習会当日集計したアンケートから当事業の反響、また走行用義足への理解度を深めることができた。走行義足の理解度、アライメントデータ管理アプリの有効性については、計画で定めた達成状況等に係る評価指標に基づく評価結果から目標を達成することができた。

実施期間とコロナ禍の影響から成果としては当初計画していた目標を一部達成することができなかったが、講習会や本活動の反響から継続して活動することで持続可能な障害者スポーツビジネスモデルの実現が期待できる。